

令和4年度（第1回）山陽小野田市地方創生協議会会議 会議録	
開催日時	令和4年11月22日（火）9時30分～11時30分
開催場所	山陽小野田市役所 本館3階 小会議室
出席委員	山陽小野田市地方創生協議会委員 9人 （江田座長、田邊副座長、岡本委員、半矢委員、松島委員、竹森委員、池北委員、藤本委員、小原委員）
出席職員	（事務局） 企画部長、企画課長、企画課主幹、企画課政策調整係長、企画課主事
協議概要	<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶（部長代読）</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 事務局紹介</p> <p>5 議題</p> <p>(1) 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度の検証についての説明と意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る施策及び重要業績評価指標（KPI）の検証結果一覧表（資料3） ・ 重要業績評価指標（KPI）（令和3年度）の達成度の状況について（資料4） ・ 第1期総合戦略の検証について（資料5） <p>(2) 地方創生推進交付金事業の進捗及び重要業績評価指標（KPI）についての説明と意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方創生推進交付金事業の進捗及び重要業績評価指標（KPI）の達成度の状況について（資料6） <p>【事務局が資料について説明】</p> <p>(1) 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度の</p>

検証についての説明と意見交換

・山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る施策及び重要業績評価指標（KPI）の検証結果一覧表（資料3）

○資料3の主な質疑応答

【江田座長】

最新の人口は何人であるか。

【事務局】

令和4年10月末現在、住民基本台帳の数値として、60,302人。内訳は、男性28,772人、女性31,530人。世帯数は29,010世帯。

【江田座長】

本市の人口ビジョンに近い数字になっているか。

【事務局】

人口ビジョンは国勢調査の数値である。令和2年度で比較すると、人口ビジョンでは60,865人だが、国勢調査では60,326人となっており、想定を下回る状況である。

【岡本委員】

平成17年の合併当時の人口は何人であるか。

【事務局】

約68,000人である。

【藤本委員】

コロナの影響をどう見ているか。外国人観光客数の達成度評価がDとなっているが、あまり価値のない評価のように感じられる。評価を誤ると今後の打ち手に影響すると思う。

【事務局】

観光面では人流の制限を受けるなどコロナの影響が大きく、実績が平常値ではないものの、令和3年度の検証は第1期総合戦略の最終年度にあたることから、あくまで数値的な評価とし、評価なしとはしなかった。

【小原委員】

市内企業の立地件数とは、市内で移転した企業の数ということか。実際に事業がスタートし、新たな雇用が生まれているか。

【事務局】

市内で移転した企業を含む数である。令和3年度までの実績であるが、いずれもすでに事業を開始され、新たに雇用されている。

【岡本委員】

ふるさとづくり協議会主催のジュニアフェスタは自治会連合会も共催しており、大変盛況であった。地域の元気のためにはイベントが大事で、行政がリードすれば民間もついてくると思うので、市も協力してほしい。

【事務局】

市も様々なイベントを実施し、交流人口の増加等に努めていきたい。

【岡本委員】

積極的に補助金を出すべきである。

【事務局】

ご意見として承る。

【岡本委員】

核家族化で、高齢者の家問題が深刻化している。相談窓口の設置やサポートをしていただきたい。

【事務局】

高齢福祉課で窓口を設けているので、利用していただきたい。

【田邊副座長】

UJI 関連の補助金があることをもっと周知すべき。

【事務局】

周知に努める。

【竹森委員】

2 ページ 40 番と 58 番は同じ指標で達成度が異なっているがどちらが正しいか。

【事務局】

58 番の「C」は誤りのため、「B」に訂正する。これに伴い、資料 4、B 評価の合計を 11、C 評価の合計を 20 に訂正する。

【松島委員】

「42 通学路における子供の交通事故件数」の達成度 B は評価として甘いという気がする。道路の印字が薄い箇所が散見されるが、整備しアピールすることが、安全・安心なまちづくりをしているという PR ポイントにつながる。

【事務局】

平成 26 年の実績 10 件に対して減少していることから B 評価とした。学校教育課と土木課で、毎年通学路の安全点検を実施しており、少しでも事故が減るよう対策を進めている。

【半矢委員】

「61 校区別防災訓練の実施数」は A 評価が続いており、防災士を始めとした自治会がきちんと実施されている結果だと思う。“ひと”や家を守るために、これまで以上に予算化をしていただきたい。

【藤本委員】

「通学路における子供の交通事故件数」を B 評価とする根拠は理解できるが、市の姿勢として 0 件になるまでは努力すべきで、進捗評価の「概ね順調」は、表現として適切でないと感じる。

【事務局】

今後は、いかに目標値に近づけるかというところに重点を置いて、評価方法の見直しをしたい。

【小原委員】

空き家除却後の空き地を活用・流通させるための施策を講じてはどうか。

【事務局】

全国の自治体が様々な取組をしているので、研究し、できることから取り組んでいきたい。

【小原委員】

公共交通維持のための新たな施策はあるか。

【事務局】

今年度、地域公共交通計画の改訂があり、バス路線再編の方向性や利便性の向上等を考えていく。具体的には、船鉄バスがバスロケーションシステムの実証試験をしており、市としても PR していきたい。また、ニーズ調査を行い、粘り強い対策を考えてきたい。

○資料 4 の主な質疑応答

【松島委員】

力を入れていくべき C・D 評価の数が前年とほぼ変わらないのは、進歩がないように見える。

【事務局】

C・D 評価については、担当課がボトルネックを把握しどう改善すべきかを意識するよう、企画課からも促していきたい。

○資料 5 の主な質疑応答

なし

○意見交換

なし

【事務局が資料について説明】

(2) 地方創生推進交付金事業の進捗及び重要業績評価指標（KPI）についての説明と意見交換
・地方創生推進交付金事業の進捗及び重要業績評価指標（KPI）の達成度の状況について（資料6）

○資料6の主な質疑応答

【松島委員】

ガラス以外のブランドをもっと増やしていくべきでは。

【事務局】

特産品・名産品を増やす取り組みや、6次産業化に対する補助を行っている。実際に登録や商品化も進んでおり、広く知っていただけるよう発信していきたい。

【小原委員】

工芸品等の作家はどこも苦勞していると聞いている。ガラスの対象等が定まっていない印象を受けるが、今から高い付加価値をつけていくための戦略はあるのか。

【事務局】

作家が5人しかおらず、市外にブランドを浸透させるだけの数が確保できていない。どのように産業ベースに乗せていくかを検討しているところである。

【田邊委員】

駅や駅周辺にお土産売り場を設けたほうが良い。ガラスもお土産売り場で買えるようなちょっとしたものがあれば、選択肢も増えて良い。

【事務局】

市外だけでなく市内にもPRし、市民がお土産にガラスを購入し市外に発信してもらうことも大事だと考えている。

【松島委員】

市内で活動されているガラス作家の方は、芸術・美術品として作品をつくられている印象だが、クラスガラスの方向性は？

【事務局】

暮らしに寄り添うことをコンセプトにしているので、例えば、お猪

口や花瓶など、暮らしの中で使う製品を展開していけたらと考えている。

6 その他

【池北委員】

現在学部学生が 1,500 名おり、7 割は県外からの学生で、学生全体では 7 割超が下宿をしている現状がある。

・イベントについて、学生の考え方や生活スタイルが多様な中で、計画的に参加できるよう、年間スケジュールを出してほしい。大学としても、年間計画があると参加を促しやすい。

・学生のバス無料について、無料分は大学が負担しているが限界がある。学生の活動範囲が限られてしまうので、公共交通の維持は市としても努力していただきたい。

・市のブランドについて、職員の出張や学生の帰省の際にお土産になるものがあれば、かなりの宣伝効果があると思う。

【江田座長】

・商工会議所として、お土産等の委員会を設けて取り組んでいる。
・公共交通について、理科大の学生と路線や時間帯の研究をし、提案できればと考えている。

【田邊副座長】

市内に道の駅があるといい。

【事務局】

道の駅にするには様々な条件があり難しいが、きらら交流館の再整備の中で、物販コーナーの充実や若者が集まれる仕組みづくりを計画している。

【松島委員】

糸根公園のワークショップで、地元では道の駅にしてほしいという意見もあるが、市からは公園の整備が既定路線であるかのような説明があった。残りのワークショップでは、市の将来を考えた話し合いができればと思う。

【事務局】

担当課に伝えておく。

7 閉会